作成日：2024年03月18日
改訂日：2025年06月03日
整理番号：S000002517-2

安全データシート（SDS）

1．化学品及び会社情報

化学品等の名称　フロアトップアクアプライマーハエレオ　硬化剤

会社名　アトミクス株式会社
住所　347-0017 埼玉県加須市南篠崎1-12-1
電話番号　0480-65-9634
ファックス番号　0480-65-0319
電子メールアドレス　atm-sds@atomix.co.jp
緊急連絡電話番号　03-3969-3125

推奨用途及び使用上の制限

アクリルウレタン樹脂系防塵塗料　プライマー ／ 硬化剤
業務用専用

2．危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性　急性毒性:経口　区分4

GHSラベル要素

注意喚起語（絵表示）



注意喚起語　警告
危険有害性情報　飲み込むと有害
注意書き
安全対策　取扱い後は手をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
応急措置　飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。
口をすすぐこと。
廃棄　内容物、容器の廃棄は、都道府県知事の認可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3．組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別　混合物
化学名又は一般名　フロアトップアクアプライマーハエレオ　硬化剤
成分及び濃度

成分名	化学式または構造式	濃度(%)	官報公示整理番号	CAS番号

ジエチレングリコール モノエチルエーテルアセテート	C8H16O4	10~20	化審法：(2)-744 安衛法：-	112-15-2
樹脂固形分		80~90		

4．応急措置

吸入した場合
空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合
付着物を布にて素早く拭き取ること。
大量の水及び石鹸又は皮膚用の洗剤を使用して充分に洗い落とすこと。
溶剤、シンナーは使用しないこと。
外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪いときには医師の診察を受けること。

眼に入った場合
直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗うこと
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
まぶたの裏まで完全に洗うこと
できるだけ早く医師の診察を受けること。

飲み込んだ場合
誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
嘔吐物は飲み込ませないこと。
医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。
口をすすぐこと。

応急措置をする者の保護
適切な保護具（保護メガネ、防毒マスク、手袋など）着用すること。
換気を行うこと。

5．火災時の措置

消火剤
炭酸ガス・泡・粉末消火器、乾燥砂、霧状強化液

使ってはならない消火剤
情報なし

特有の危険有害性
このもの自体には可燃性はない。

特有の消火方法
可燃性のものを周囲から素早く取り除く。
高温にさらされる密閉容器は水をかけて冷却する。
指定の消火剤使用する。

6．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置
作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用すること。
屋内では換気をしっかり行うこと。
屋外の場合には、できるだけ風上から作業を行うこと。
周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止すること。

環境に対する注意事項
河川への流出などにより、環境への影響を起こさないように注意すること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材
スコップ、ウエス等で回収する。大量の漏出物には盛土などで囲って流出を防止すること。
水での洗浄なども、河川等への流出、環境汚染を引き起こすおそれもあり注意すること。
漏出物は、密封できる容器に回収し、安全な場所に移すこと。
付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置すること。

7．取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策（局所排気・全体換気）
換気の良い場所で取り扱う。
容器はその都度密閉すること。

取扱者の暴露防止の記載
情報なし。

安全取扱い注意事項
皮膚、粘膜、または着衣に触れたり目に入らぬよう適切な保護具を着用する。

接触回避
特になし。

衛生対策　取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。
休憩場所には、手洗い、洗顔等の設備を設け、取扱い後に手、顔等をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

保管

安全な保管条件　日光の直射を避ける。
通風のよいところに保管する。
漏れ、あふれ、飛散しないよう必要な措置を講ずること。
盗難防止のために施錠保管する。
子供の手の届かないところに保管する。
法規に従った施設に保管する。

安全な容器包装材料　不浸透性のもの、腐食、破損のないものを使用すること。

8．暴露防止及び保護措置

成分名	厚生労働省(安衛法) 管理濃度	産業衛生学会　許容濃度	ACGIH　許容濃度
ジエチレングリコール モノエチルエーテル アセテート	データなし	データなし	データなし

設備対策　特別に必要ない。
取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。

保護具

保護具　呼吸用保護具　使い捨て式防塵マスク【国家検定区分DS2またはN95】を着用する。
オイルミストがある作業環境の場合は、対応する区分DL2を使用すること。
参考資料　https://www.env.go.jp/content/900403853.pdf

保護具　手の保護具　不透過性保護手袋
塗装作業時　使い捨て（ポリエチレン製　ニトリルゴム製）手袋など　汚れ防止効果としての着用
洗浄作業時　耐溶剤性手袋（ポリウレタン製・ブチルゴム製など）
使い捨て手袋は、直接有機溶剤のかかる作業では使用しないこと。
低密度ポリエチレン製手袋は、溶剤蒸気を透過し防護性能がないので使用しないこと。

保護具　眼の保護具　取扱いには保護メガネを着用すること。
JIS T 8147規格に適合した保護眼鏡を使用すること。皮膚刺激性や眼刺激性が区分1の化学物質を取り扱う場合は、必ず着用すること。ゴーグルタイプの保護眼鏡が推奨されますが、リスクが管理されている場合はメガネタイプの保護眼鏡でも構いません。
危険な化学物質、有害な飛沫、粉塵を取り扱う場合は、ゴーグルタイプの保護眼鏡を積極的に使用すること。

保護具　皮膚及び身体の保護具　長袖、長ズボンを着用する

特別な注意事項　この製品自体に防塵マスク着用の義務はないが、並行して行われる工事など作業環境を考慮し、保護具を着用すること。
酸欠が懸念される環境では専用の呼吸用保護具を装着すること。（酸欠が懸念される環境とは、酸素濃度が18%以下になると予想される環境を指す。）
施工道具を有機溶剤で洗浄する場合、耐溶剤性手袋を着用すること。

厚手の耐溶剤性手袋でも有機溶剤は短時間で透過し、蒸気暴露の懸念があるため、塗装器具などを洗浄する場合は、トング・ハンガー・ブラシなどの道具を用い手袋を溶剤につけないように作業すること。 耐溶剤性手袋は、ポリウレタン樹脂製の帯電防止タイプで綿の裏地付きとし、樹脂の厚みは150μ程度の厚いものを用意する。「例：強力溶剤用長手タイプ厚さ(mm)1.0(裏地含む)」 化学防護手袋で万能な手袋はありません。塗装機の洗浄や漏洩物の回収作業など、5分以上連続で溶剤に直接触れて作業する場合は、中に使い捨て手袋を装着し、二重手袋で使用するとよい。この使い捨て手袋はニトリルゴム製で厚み約50μ程度が望ましい。使い捨てニトリルゴム製手袋は、直接溶剤が付く場面では使用しないこと。低密度ポリエチレン製手袋は、溶剤蒸気を透過し防護性能がないので使用しないこと。耐溶剤性手袋は使用後、吊り下げて風乾し再使用すること。繰り返し使用する耐溶剤性手袋に浸透した有害成分の残留を考慮し、その総使用時間はその物質の最大使用時間(480分)以内を目安とする。参考資料 厚生労働省 耐透過性能一覧表 https://www.mhlw.go.jp/content/11300000/001216988.pdf

保護具に関する詳細については 公益社団法人 日本保安用品協会(TEL;03-5804-3125 / https://jsaa.or.jp/)にお問い合わせください。
参考資料「皮膚障害等防止用保護具の選定マニュアル 第2版（暫定版）」
https://www.mhlw.go.jp/content/11300000/001393159.pdf

９．物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	無色透明
臭い	微臭
融点／凝固点	情報なし
沸点又は初留点及び沸点範囲	情報なし
可燃性	情報なし
爆発下限界及び爆発上限界／可	情報なし
引火点	>95℃（クリーブランド開放式）
自然発火点	情報なし
分解温度	情報なし
pH	情報なし
動粘性率	情報なし
溶解度	情報なし
n-オクタノール／水分配係数（log値）	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度及び／又は相対密度	1.1(25℃)
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	情報なし
その他データ（放射性、かさ密度、燃焼持続性等）	情報なし

１０．安定性及び反応性

反応性	水、アミン等の活性水素を有する化合物と溶液に反応する。 水と反応して炭酸ガスを発生し、容器を破裂させることがある。
化学的安定性	通常の条件下で安定である。
危険有害反応可能性	通常の条件では危険有害な反応は起こらない。
避けるべき条件	水と反応する。
混触危険物質	情報なし。
危険有害な分解生成物	このものは燃えないが、塗膜が燃えた場合は、一酸化炭素などの有害ガスが発生する。

１１．有害性情報

この製品自体の有害性試験は行っていない。「２．危険有害性の要約」に準じ、取り扱うこと。

急性毒性	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷／刺激性	情報なし
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回暴露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復暴露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

１２．環境影響情報

この製品自体の有害性試験は行っていない。「２．危険有害性の要約」に準じて取り扱うこと。

水生環境有害性 短期（急性）	情報なし
水生環境有害性 長期（慢性）	情報なし
生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	モントリオール議定書に基づきオゾン層破壊物質 (ODS) とされる化合物を含有しない。
その他のデータ	漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与えるおそれがあるので、取扱いに注意する。 特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

１３．廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 廃塗料、廃溶剤、容器などの廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物業者に委託契約して処理をすること。 排水処理等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律および関係する法律に従って処理を行うか、委託をすること。
汚染容器及び包装	空容器は内容物を完全い除去してから処分すること。 空容器・包装等はリサイクルを推奨すること。

１４．輸送上の注意

国際規制

	国連番号	非該当
	品名	非該当
	等級（クラス）	
	容器等級	
	HSコード	3909.00
	海洋汚染物質	非該当
国内規制	**陸上規制情報**	消防法の既定に従う
	航空規制情報	航空法の既定に従う
	海上規制情報	船舶安全法の規定に従う
緊急時応急措置指針番号		非該当

１５．適用法令

毒物及び劇物取締法	非該当
労働安全衛生法	がん原性物質(安衛則第577条の2第3項、令和4年12月26日告示第371号、令和4年12月26日基発1226第4号) 非該当 皮膚等障害化学物質（安衛則第594条の２、令和６年４月１日施行） 非該当 名称等を通知すべき危険物及び有害物 非該当
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	非該当
消防法	指定可燃物、可燃性液体類(法第9条の4、危険物規制令別表第4)
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の16の項
特定有害廃棄物輸出入規制法(バーゼル法)	特定有害廃棄物(法第2条第1項第1号イ、平成30年6月18日省令第12号)
建築基準法	ホルムアルデヒド放散等級　F☆☆☆☆

１６．その他の情報

参考文献･引用文献

GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法−ラベル，作業場内の表示及び安全データシート（SDS）JIS Z 7253：2019 （GHS 改定第６版に準拠）
NITE独立行政法人製品評価技術基盤機構
労働安全衛生法政省令改正に対応したSDS記載例 改訂第１版 (一社)日本化学工業協会
「GHS対応 SDS･ラベル作成ガイドブック」 改訂第4版 (一社)日本塗料工業会

その他

本SDSにおいて労働安全衛生法の通知対象物質の含有量が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含みます。詳細データが必要な時は弊社営業部にお問い合わせください。

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが含有量、物理化学的性質、危険･有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途･用法に適した安全対策を実施の上ご利用下さい。このSDSは、新しい知見により予告なく改訂することがあります。

本SDSは、令和7年4月1日と令和8年4月1日施行の労働安全衛生法改正に対応したものです。

【 公益財団法人 日本中毒情報センター（JPIC）の中毒１１０番･電話サービス の紹介 】
365日24時間対応の一般専用受付電話番号（情報提供料：無料）
大阪中毒１１０番　072-727-2499　つくば中毒１１０番　029-852-9999
注意：
中毒110番は化学物質や動植物の毒などによって起こる急性中毒について、実際に事故が発生している場合に限定し情報提供しております。
慢性中毒(薬物依存、薬物乱用、労働災害、環境汚染など)については受け付けていません。